

オリンピック・パラリンピック応援賞

花や緑、その他の装飾を使い、オリンピック・パラリンピックを応援する花壇で優秀なもの

西軽海町一丁目町内会、国府児童クラブ、沖町町内会、月津小学校、花みずき会、松陽こども園、JA今江女性部、上荒屋町町内会、糸町町内会、稚松児童クラブ、犬丸児童クラブ、木場こども園、金平町いきいきクラブ、千松閣管理事務所、北陸電力株式会社、のしろ児童館、粟津児童クラブ、中海小学校、なかよし幼稚園、よしたけこども園、舟見ヶ丘保育園、金野町町内会、林町老人クラブ、松生町町内会、東陵小学校、わかばにしかるみこども園、白嶺幼稚園

殿堂入り花壇

過去のコンクールにおいて、大賞を2度受賞した花壇

エイキKKツバキの会 (木場町)



※殿堂入り花壇はコンクールに参加していません

花水樹賞

- ・ ボランティアを基本とした花や緑の育成活動により地域社会に優れた実績を残した個人及び団体
- ・ 積極的なボランティア活動を年間30日以上かつ2年以上継続し、他の模範となるもの

千恵子桜を育てる会 (松岡町)

講評 「千恵子桜」は、1953年に17歳でブラジルに嫁ぐ際、千恵子さんの叔父が彼女の幸せを祈って植えたものです。

集落の過疎化が進む中、桜の手入れが行き届かず、一時、桜周辺は草木で荒れ放題になりましたが、地域の人々を中心に設立された「千恵子桜ファンクラブ」が2002年から始めた保存活動により、樹齢約70年で巨樹定義の幹周3mを超えるほど生育し、2008年には日本樹木医会が認定する健康優良樹に石川県内で唯一選ばれました。

山里の絆をつなぐ活動は「千恵子桜を育てる会」に引き継がれ、毎年、春に、施肥作業や周辺木の伐採、遊歩道の整備や柵の設置などの保全管理を行っています。満開の桜を多くの人が見に来てくれ、活動を続けることで「私たちの桜」だけでなく、「みんなの桜」になれたと喜んでます。



田谷特別賞

- ・ 部門を問わず作品が優秀であり、大勢の人の和を創出する役割を持つものや、メンバーが連携して困難を克服し活動を継続しているもの

鍋谷川環境推進協会の

講評 24の企業と鍋谷川周辺の2町(千代町、古府町)で結成された「鍋谷川環境推進協会」は、2012年に河川の管理や景観向上を図る「いしかわ我がまちアドプト制度」の河川における活動団体の第一号として認定され、活動を開始しました。

千代町から古府町にかけての延長約1.5kmの「鍋谷川健康の道」で、2013年には桜の苗木100本の植樹や、新たな休憩スポットを整備し、それ以降、草花の植付や水やり、自然観察会の開催、清掃や除草作業の美化活動などを行い河川環境の向上に取り組んでいます。

また、協会が目指す「世代を超えて、誰からも親しまれる水辺周辺環境を創りたい」という思いから、鍋谷川周辺の福祉施設入居者に憩いの場、健康づくりの場として活用されるほか、園児による自然観察会の開催など、多世代が交流する場となっています。



審査員長 和田 博幸氏 公益財団法人日本花の会 特任研究員 樹木医

新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中、このコンクールには昨年を上回る191件の応募がありました。応募いただいた皆さまには、この場をお借りして感謝申し上げます。そして受賞された皆様、心よりおめでとうございます。

コロナ禍のもと、日々の生活では様々な行動が制限されています。マスク着用、社会的な距離を保つ生活が奨励され、集まることを禁止されるなど、花壇づくりでも不自由を余儀なくされています。それにも関わらず、フローラルこまつが活動がより活発に続けられ、応募数が増えたのはなぜでしょうか。花を思う気持ちだけでは何かがあるはずなんです。

このことを私は次のように考えました。皆さんは感染症のことが四六時中頭から離れず、鬱々とした気分の日々を過ごされています。この気分を解消するには花を育てる活動が身近にあって、最適だったのではないかと

考えました。花はきれい、いい香りがする、季節を感じられる、咲かせて他人に見せる喜びがある、適度な運動にもなるなど、鬱積した気持ちを晴らしてくれる要素がたくさんあります。そして何よりも育てた花を愛でることは、人と人とを、人と地域を、人と自然を、人と地域文化を…など、様々な形で仲立ちして取り持ってくれます。つまり花の活動は一人で行っていても「花の仲立ち効果」によって、決して一人ではないということを感じさせてくれます。さらに花の存在は孤独でもやもやした不安を解消し、安堵との仲立ちもしてくれます。だから花がある町にいとほとした気持ちを抱かせ、心地よく落ち着いた気分です。フローラルこまつが盛んになればなるほど小松市は安心して穏やかに暮らせる魅力的なまちになるのです。このことからフローラルこまつは視覚的のみならず、精神的にもいい成果をもたらしてくれることが理解いただけると思います。

嬉しい報告がありました。第31回全国花のまちづくりコンクールで小松市は花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞を受賞しました。平成24年来、4度目の挑戦で頂点にたどり着きました。この栄誉はフローラルこまつに賛同し、一緒に活動してこられた皆さんの努力の賜物です。心より祝福申し上げます。

フローラルこまつ

花のコンクール大賞

2021夏 花のコンクール大賞





大賞

下粟津町花の会

講評 昨年より賞がワンランクアップし、今年は大賞を受賞されました。この会の活動が素晴らしいのは、きれいに咲きそろおうように花が摘みが丁寧にされていて、それぞれが咲き競いながらも調和しているところです。また、プランターや花壇の周りがきれいに掃除されて清潔だということもあげられます。ゴミひとつないところは、より美しく見えます。花の周囲まで気遣うことができ、それらの活動が町内で長い間続いていることは、花のまちづくりの目指すところでもあり、その見本といえます。

団体の部（一般）

西軽海町一丁目町内会



講評 今年も色とりどりの花が花壇を彩っていました。この会で感心するのは新たな取り組みに挑戦する姿と花を魅せる工夫が随所にあるところで、皆さんの向学心と向上心が活動の結果に表れています。このチャレンジ精神に満ちた取り組みは市内の団体の中ではピカイチで、今年は東京2020オリパラにちなんだ花壇が最高でした。

小松市武道館



講評 不用になったバリケードや灰皿を使った花飾りが目を引き、花壇には黄色やオレンジ、えんじ色といった、元気が出るビタミンカラーの花を意識して植えています。施設の性質と花の配色を一致させたコンセプトは評価できます。花は「頑張っ！」と無言のエールを利用者に送っているようです。

沖町町内会



講評 毎年、話題に富んだ花壇で市民の目を楽しませてくれます。東京2020オリパラを象徴するかのようカラフルな虹と聖火に見立てたカンナが印象的です。この会は尽きないアイデアが評価できます。炎天下でも元気に咲く花は、離れたところからでも世界中の選手たちを応援しているかのようです。

花みずき会（白嶺町）



講評 小松に来られる東京2020オリパラ選手の国が、花壇の小さな面積でうまく表現されています。国のことを調べ、関連する草花を探す努力をおし、その結果が、たくさんの植樹帯で美しく咲く花装飾に表れています。温かなおもてなしの心は、選手のみならず、道を通る人にも伝わっていることでしょう。

奨励賞

- 団体の部（一般）／フローラルついで（符津町）、末広球場管理事務所、今江町町内会、JA今江女性部、上荒屋町町内会、フローラル沖町、小山田町仙寿会、糸町町内会、コマツ粟津工場
- 団体の部（児童・生徒）／犬丸小学校、芦城児童クラブ、稚松児童クラブ、第一小学校、那谷小学校、符津小学校、西部児童センター、日末小学校、犬丸児童クラブ
- 団体の部（幼児）／のしろこども園、木場こども園、聖愛幼稚園、御幸保育園

入選

- 団体の部（一般）／木場さわやかクラブ、南浅井町町内会、金平町いきいきクラブ、千松閣管理事務所、小松総合体育館管理事務所、小松市農業協同組合、符津町町内会、北陸電力株式会社、鶴川町町内会
- 団体の部（児童・生徒）／のしろ児童館、粟津児童クラブ、コノビバ わくわく広場、東部児童センター、月津児童クラブ、中海小学校、向本折小学校
- 団体の部（幼児）／なかよし幼稚園、よししたけこども園、舟見ヶ丘保育園
- 個人の部／松本 有子 様（八幡）

努力賞

- 団体の部（一般）／航空プラザ管理事務所、チャレンジ花壇教室Cチーム、鶴川福寿会、北部児童センター、カーネーション（長谷）、金野町町内会、林町老人クラブ、下八里町町内会、フローラル西軽海NO2、松生町町内会
- 団体の部（児童・生徒）／今江町児童クラブ、小松市立高等学校、小松大谷高等学校、東陵小学校、すずらんクラブ（西軽海町）、蓮代寺小学校、那谷児童クラブ、芦城小学校、芦城中学校、能美児童クラブ
- 団体の部（幼児）／わかばにしかるみこども園、ちこう（ふたば棟）、白嶺幼稚園、粟津こども園、中海こども園、南陽幼保園
- 個人の部／高戸 悦子 様（符津町）

団体の部（児童・生徒）

国府児童クラブ



講評 建物の正面からは、どこからでも花が見られるように花壇が配置され、自由な発想ながらも同じ種類の花を寄せるなどの工夫もあって見応えがあります。花壇からは子どもたちの笑顔と協力して花壇づくりをする姿が想像できます。ブロック塀の上を利用する鋭い視点も評価しました。

月津小学校



講評 こぼれ種で増えた花を花壇に加えたり、理科の観察で育てた花も植え直したりして、一年中花が見られるようにしています。生き物を大切に育てる気持ちが花壇づくりに表れています。シバザクラやヒメワダレソウの緑が基調になっているので、花が映えて見え、地域に馴染んだ花壇づくりが評価されます。

稚松小学校

講評 飼育園芸委員会は「みんなでやろう！誇れる学校」のスローガン通り、協力して花を育て、きれいな花を咲かせています。正面玄関前にプランターを集めて並べ、花がこぼれ落ちるほどのボリュームで咲き誇っていて、まさにスローガン通りです。地域の皆さんに見て喜んでもらうと努力した成果といえます。

団体の部（幼児）



講評 毎朝登園する園児たちを、玄関前に並べられた花が迎えてくれます。園児の中には花に挨拶する子がいたり、見慣れた花なのに日々その様子の違いに気付く子もいたりして、花が子どもたちの感性を育んでいるようです。これらは花育が目指すことでもあり、こども園の花の取り組みは評価に値します。



矢田野こども園

講評 園庭の花壇は、はっきりした色の黄色や赤い色の花で配色され、園児たちにも好評のようです。花も園児の笑顔と暑さにも負けず、色とりどりの花を咲かせています。花がら摘みを兼ねて、摘んだ花を色水遊びやまごこと使うなど、遊びを通して花作りの体験になっていることに感心しました。

個人の部

そば処 もとや（大杉町）



講評 山間の地域に相応しく、野山に咲く野草類で庭づくりがされ、長年かけて苔も定着し、周りの風景と調和した庭の落ち着いた行まいを高く評価しました。持続可能な庭を考えると、このようなタイプの庭づくりも場所によってはありで、オープンガーデンに訪れた方々にも大きな刺激になっているのではないかと思います。

高橋 清美 様（南陽町）



講評 庭の面積は決して大きくはありませんが、植え方の工夫で奥行きのある庭を演出し、細部にわたって手をかけた花作りがされています。庭づくりの感性は、隅々まで目が行き届くことから生まれ、まさにそれを実践されている点が高く評価されます。それにも増して楽しさと美しさが全面に伝わってくるのが見事です。

石原 丈太郎 様（村松町）



講評 和風の面持ちのある玄関先のアプローチですが、色とりどりの洋種の花を飾っても違和感がありません。その理由は花の色合いや高さを考えて鉢を配置しているからなのでしょう。徹底した土づくり、花が咲き始めてからも花がら摘みや施肥、水やりなどのきめ細かな花作りは、個人の活動の模範と言えます。

國本 久美子 様（河田町）



講評 植物の種類が多いのに、色合いや植物の配置が工夫されていて、柔らかな雰囲気の中にも洗練された印象を受けます。かわいらしいオーナメントもあいまって、優しい人柄が表れた好感度の高いお庭が出来上がっています。ローコスト、ローメンテナン스로、楽しみながらお世話している様子がうかがえます。